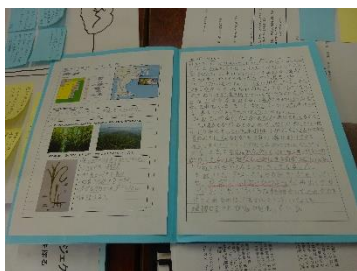




●10月26日(木)、剣崎小学校で「江奈湾の秘密を探る」というテーマで公開授業が行われました。(5年生、長沼先生)

子どもたちは、4つのグループごとに、自分たちが調査したことを発表し、それぞれのグループが疑問に思ったこと(「川の役割は何だろう?」「江奈湾には、なぜカニや鳥、アマモなど、たくさんの生き物が生息しているのだろうか?」など)を提示します。こうして出た4つの疑問について、自分の考えを出し合いました。子どもたちは、自分の意見をしっかり発表し、人の意見も聞くことができました。



また、剣崎小学校のあちこちに、海洋学習についての掲示物がありました。

●その後、授業についての協議会がありました。今回は、海洋教育部会と、みうら学研究会及び海洋教育研修会を兼ねていたので、市内の多くの先生方も参観し、熱心な討議をしていました。東京大学海洋アライアンスの田中先生からは、江奈湾は、日本有数の自然の干潟であること、今日の授業が、体験だけで終わらせることなく、自分のものになっていて、しかもそれを共有することによって心に残るものになっていたという評価をいただきました。また、国立教育政策研究所の五島先生からは、アマモ場の貴重さなどの、思いをもって海を見ることができれば素晴らしい。風景を見て何を感じるかが大切で、そういうことを踏まえた授業が、中学生・高校生になって生きてくるのでは、という考えが示されました。



●25日、三浦焼の角野竹博さんが、研究所にやってきました。実は、以前、海洋教育に関連して、真珠の養殖に使ったあとのアコヤガイの殻を使って焼き物を作ろう、ということになっていたのです。

そこで、小パール隊さんに貝殻を提供してもらって、試行錯誤を繰り返していましたが、出来上がった作品を持ってきてくださったのです。

写真で、緑色っぽく見えるところが、貝殻が変色した部分だそうです。ぐい飲みの方は、貝殻と榎の木の灰とを混ぜたものを使った作品だそうです。先生によれば、来年は、もっといいものができそうということでした。

海洋教育が、様々な人たちの協力で、少しずつ広まってきているのを感じました。



(文責 事務局長 渋谷)